

## 会 告

農業土木学会取引銀行支店の変更について.....	82
平成 18 年度「研究グループ」の助成金募集について .....	82
農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い.....	82
農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行延長について.....	83
「農業土木学会誌」読者の氏名公表とご協力のお礼.....	83
「農業土木学会論文集」読者の氏名公表とご協力のお礼.....	84
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について .....	85
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと編集事務局（投稿先）の韓国移転のお知らせ .....	86
農業土木学会誌への投稿お待ちしております！ .....	88
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「農業土木学会誌」平成 19 年春季用の表紙写真の募集 .....	89
新シリーズ「水利遺産探訪」スタート 皆様のご投稿を大募集中 .....	90
既刊の土地改良事業計画設計基準等の正誤表について.....	90
国際水田・水環境工学会 2006 年（第 4 回）国際研究集会の開催について .....	91
日本農業工学会第 22 回シンポジウム 食料生産エンジニアリングの新展開 .....	92
農業土木学会論文集第 242 号内容紹介.....	93
<b>学会記事</b> .....	96

## 農業土木学会（本部）行事の計画

農業土木学会（本部）行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

⊗のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 18 年 8 月 8～11 日	大会運営委員会	平成 18 年度農業土木学会大会講演会 ⊗		宇都宮大学	73 巻 12 号 74 巻 1 号 3 号

## 農業土木学会関連行事予定

平成 18 年 9 月 7 日, 8 日	農村計画研究部会	平成 18 年度第 28 回現地研修集会 ⊗		熊本テルサ ホール	74 巻 2 号
-------------------------	----------	------------------------	--	--------------	----------

### 第 74 巻 5 号予定

**展望：**農業土木の国際化；池内 透

**小特集：**農業土木の国際化の現状と方向性

ICID を取り巻く現状と今後の課題；角田 豊他

緑資源機構の砂漠化防止対策；奥平 浩他

参加型かんがい管理に対する取り組み；稲木道代他

国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF）の活動について；渡邊史郎他

**特別報告：**国際水田・水環境工学会（PAWEES）

PAWEES 2005 国際研究集会報告；松野 裕

2005 年国際研究集会報告 1 水田の多面的機能；凌 祥之

2005 年国際研究集会報告 2 総合的水管理分科会；増本隆夫

2005 年国際研究集会報告 3 環境と食料問題分科会；渡辺紹裕

水田農業地域の農業工学技術者育成に関する第 4 回国際会議；増本隆夫

PAWEES 国際会議（台湾）および第 3 回国際賞授賞式；中村公人

**技術リポート**

北海道支部：遮水矢板を用いた調整池の設計について；佐々木孝宏

東北支部：迫川上流域のダムと水田における渡り鳥のエコロジカルネットワークの可能性；加藤修一

関東支部：水路トンネルにおけるカワヒバリガイの駆除事例；田村優頭

京都支部：海抜ゼロメートル地帯における農業農村整備事業の PR 活動；林 健也

中国四国支部：「地域支援活動」の実践を通じて；坂根 勇

九州支部：自然環境に配慮したクリーク整備事業について；小野力造他

**講座：**水土文化への誘い（その 3）水土文化の見方；モノを見よう 1；松本精一他

**小講座：**人間の安全保障；中井 雅

**私のビジョン：**留学生と大学院教育の来た道行く道；西村 拓

## 農業土木学会取引銀行支店の変更について

当学会の取引銀行の「みずほ銀行日比谷支店」は、統合により平成18年3月13日から「みずほ銀行新橋支店」に変更になりました。支店番号等は下記のとおりです。

記

**新支店** みずほ銀行新橋支店(支店コード130)

口座 普通預金 1167243(従来どおり)

名義 :(社)農業土木学会専務理事

岩崎 和己(イワサキ カズミ)

## 平成18年度「研究グループ」の助成金募集について

### 研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は、原則1件20万円程度3件以内です。

本年度の申請締切は、平成18年6月30日(金)ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式(学会HP参照)で研究委員会委員長宛にお申込みください。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

- 1 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
- 2 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
- 3 配布：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。
- 4 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

(イ)具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ)「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ)「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

(ニ)「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に36歳未満であること。

- 5 活動報告：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注1)研究経過報告書の執筆にあたり、農業土木学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷り上がり1~2ページに収まるようにまとめること。

注2)「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

## 農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い

### 農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しました。

この災害対応特別委員会では、農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害、に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備することとしました。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるように、事前に皆様方の登録をお願い

しておくことといたしました。登録を希望された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業土木学会が後日精算する(年

度予算限度額 300 万円)

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。様式は農業土木学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードし、お申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

専門分野： 水理， 水文・気象， 土壌物理， 土質， 地質・地理， 環境， 地域（農村）計画， 一般， 灌漑排水， 農地造成， 農地整備， 農地保全， 水産土木， 材料・施工， 農業機械， 集落排水， その他

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査団にのみ活用し、適切に取り扱います。

## 農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行延長について

農業土木学会行事企画委員会

農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

行事企画委員会と継続教育機構は平成 17 年 10 月より、通信教育の試行を行ってきました。試行に参加いただいた会員各位に感謝申し上げます。試行に多数の会員が参加いただき平成 18 年 4 月より本格実施を行う予定でしたが、残念ながら参加者は少数に留まりました。そのような状況の原因を探るため、通信教育制度に関する緊急アンケートを実施したところ、参加希望者は多いものの、通信教育制度が多くの方に認知されていないこと、また、制度についての正確な情報が不足していることが分かりました。

そこで、平成 18 年 4 月から 10 月までの 6 カ月間試行を延長し、より広く情報を伝えることといたしました。延長試行期間中いつからでも参加可能です。是非、通信教育にご参加いただきたく、お願い申し上げます。

### 1. 参加会員の募集

この試行に参加をご希望の学会員の方は、農業土木学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある**参加申込書**に必要事項を記載してメール (E mail:cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX 03 5777 2099 へ送信してください。

今回の試行が成功し、本格運用へ移行するためには、多くの会員の参加が必要です。しかし現在、少数であり本格実施のために、周囲の方に声をかけていただき、多数のご参加をお願いします。

なお、これを機会に農業土木学会、機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込み様式がありますので、ご記入の上お申

込み下さい。

### 2. 申込期限

この試行への参加は、いつからでも可能です。短期間であっても参加し、意見をお寄せ下さい。

### 3. 試行の事務局

試行の事務局は、機構の評価委員会内部に設置する試行部会および機構事務局が担います。

### 4. 試行の内容

3 カ月前の学会誌の報文を主体に機構試行部会が作成した問題を毎号学会誌に掲載します。

問題は択一式とし、4 月からは毎回 10 問を掲載します。一つの報文から数問、報文の事実的内容から問題を作成します。

回答は、メールにて機構へ返信し、採点結果から 7 割正解で 1 CPD、満点で 1.5 CPD が与えられ、継続教育記録として自動的に登録されることとなります。

回答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

### 5. 試行の評価と本格運用への移行

試行の結果より、課題、改善点等を把握し、修正を加えた上で本格運用に移行したいと考えています。

なお、農業土木学会誌 4 月号より継続教育機構の広報ページ「CPD ニュースレター」を新たに掲載いたします。是非ご参照下さい。

## 「農業土木学会誌」読者の氏名公表とご協力のお礼

農業土木学会誌編集委員会

農業土木学会誌は、昭和 4 年の学会創立とともに、農業土木研究として刊行され、以来、戦中の一時期を除き、多くの方々のご協力により発行を続けてまいりました。

とりわけ、読者の方々には多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。

農業土木学会誌編集委員会では、読者への感謝の意を表すべく、平成 11 年度から氏名を公表（五十音順・敬称略）させていただくことといたしました。

ここに、2005 年 4 月から 2006 年 3 月までの期間に、読読いただきました方の氏名を公表させていただきます。

この一年間に学会誌の内容充実にご協力、貢献いただきまして、まことにありがとうございました。ここに、お名前を記し、貢献への証しとさせていただきます。今後とも、ご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

赤江剛夫	荻津輝夫	嶋栄吉	鶴丸雄二郎	牧山正男
浅井喜代治	鬼塚宏太郎	志村もと子	渡嘉敷勝	増川晋
足立一日出	風間彰	神宮字寛	豊田裕道	松井宏之
石井潤	加藤治	鈴木正	土井和之	松岡生磨
石渡輝夫	加藤亮	関勝寿	中井雅	松田文秀
泉峰一	金木亮一	千賀裕太郎	中田撰子	嶺田拓也
伊藤絹子	金田力	高橋悟	中西憲雄	三輪弑
岩淵和則	狩俣茂雄	瀧本裕士	中村和正	村島和男
上田達己	川村文洋	武田育郎	中村公人	山本忠男
浦杉敬助	工藤庸介	武田久和	中村康明	弓削こずえ
大坪成	久保田富次郎	竹村武士	西村伸一	柚山義人
大野研	小出水規行	武山絵美	服部俊宏	渡辺紹裕
大平辰朗	小林久	田中勉	馬場範雪	渡部邦夫
岡田茂明	小梁川雅	谷茂	樋口清司	
岡庭良安	櫻井雄二	樽屋啓之	日高正人	
小川紀一郎	笹田勝寛	大黒理	藤咲雅明	
小川茂男	鹿間哲男	辻修	牧恒雄	

「農業土木学会論文集」読者の氏名公表とご協力のお礼

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集は、昭和35年10月発行の「農業土木研究別冊1号」から教えて、平成18年4月には、通算242号を数えることとなりました。投稿される論文数も年々増加し、その分野も徐々に広がりつつあります。このような環境の中で、読者各位のご支援・ご協力によって、つつがなく242号までの刊行が可能でありましたことを、深く感謝申し上げます。

農業土木学会論文集編集委員会では、感謝の意を表したく、平成11年度から読者を公表（五十音順・敬称略）させていただく

ことといたしました。

ここに、2005年4月から2006年3月までの期間に投稿原稿を閲覧いただきました読者の氏名を公表させていただきます。

この一年間、論文集に掲載されるにふさわしい内容の維持にご協力いただきまして、まことにありがとうございました。ここに お名前を記し、貢献への証しとさせていただきます。

今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

合崎英男	板垣博	加治佐隆光	北田紀久雄	小出水規行
赤江剛夫	糸長浩司	片野修	北辻政文	河野英一
芦田敏文	井上一哉	加藤治	木ノ瀬紘一	甲本達也
東信行	井上光弘	加藤亮	木全卓	小島信彦
足立一日出	宇波耕一	加藤徹	宜保清一	小林晃
足立忠司	戎信宏	角野三好	九鬼康彰	小林慎太郎
足立泰久	大石哲	角屋睦	工藤明	小林範之
蘭嘉宜	大上博基	金谷尚知	國松孝夫	小林久
有田博之	大久保博	金木亮一	國光洋二	小梁川雅
安中武幸	大野研	兼子健男	久保成隆	近藤正義
石黒宗秀	奥島修二	河地利彦	倉島栄一	近藤文義
石田憲治	小倉力	河端俊典	黒田久雄	後藤眞宏
泉完	角道弘文	川本健	小池聡	斉藤憲治

酒井一人	竹下伸一	長野宇規	藤原洋一	毛利栄征
阪口秀	武田育郎	成岡市	古谷保	元杉昭男
坂田寧代	竹村武士	西村伸一	星野敏	粕井和朗
匂坂正幸	武山絵美	西村真一	細川吉晴	森淳
佐久間泰一	田中丸治哉	西村拓	堀俊和	森健
櫻井泰弘	谷川寅彦	西山壮一	堀野治彦	森也寸志
佐藤周之	丹治肇	登尾浩助	前川勝朗	森井俊広
佐藤政良	近森秀高	八丁信正	前川俊清	守田秀則
四ヶ所四男美	長裕幸	服部俊宏	牧山正男	八木洋憲
嶋栄吉	渡嘉敷義浩	端憲二	増川晋	矢沢正士
島田清	富樫千之	服部九二雄	松井宏之	矢内純太
島田正志	富田正彦	早瀬吉雄	松尾芳雄	矢部勝彦
清水夏樹	友正達美	原口暢朗	松本伸介	山岡賢
志村もと子	取出伸夫	半場祐子	松本康夫	山本忠男
白谷栄作	中達雄	伴道一	丸山利輔	山本徳司
新庄彬	中石克也	東田淳	三浦健志	柚山義人
杉山博信	中桐貴生	秀島好昭	三沢真一	万木正弘
鈴木創三	中嶋勇	平松和昭	水谷聡	吉岡崇仁
鈴木正貴	中曾根英雄	広瀬慎一	水谷正一	吉田謙太郎
関根雅彦	中野芳輔	福田哲郎	溝口勝	吉田隆輝
千賀裕太郎	仲野良紀	福村一成	三橋伸夫	吉永健治
千家正照	中村俊六	福与徳文	嶺田拓也	吉永秀一郎
宗村広昭	中村智幸	藤崎浩幸	三原真智人	米山忠克
高瀬恵次	中村好男	藤咲雅明	三宅康成	若杉晃介
高橋強	中矢哲郎	藤原正幸	宮島利宏	渡辺一哉
田熊勝利	長坂貞郎	藤森新作	三輪弑	渡辺紹裕
竹内真一	長澤徹明	藤原拓	村島和男	和田清

**国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと  
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について**

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2006年3月末にはVol.4, No.1(Special issue: Challenges and Opportunities for Sustainable Rice based Production Systems)が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)

- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社(ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費：正会員 12,000 円/年/4 冊(送料等学会負担)  
 学生会員(院生含む) 8,500 円/年/4 冊(送料等学会負担)  
 申込先：農業土木学会編集出版部 吉武宛  
 ホームページ：http://www.jsidre.or.jp

入会のお申込みは、学会 HP (http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたは FAX でお申込みいただけます。

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局(投稿先)の韓国移転のお知らせ

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会「国際水田・水環境工学会」(International Society of Paddy and Water Environment Engineering) を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2006年3月末には Vol. 4 No. 1 (Special issue: Challenges and Opportunities for Sustainable Rice based Production Systems) が発刊されました。

我が国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国から Editor (13名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

**編集事務局の移転**：2003年1月の学会設立以来、農業土木学会が編集事務局を担って参りましたが2006年1月1日からは新 Editor in Chief; 中野芳輔九州大学教授の下、韓国農業工学会が今後3年間(～2008年12月31日まで)、編集事務局を担当することとなりました。

これに伴い、Editorial Panel の構成メンバー(編集体制)および新投稿先が下記ようになります。

ただし2005年12月末までに投稿された原稿は、日本(農業土木学会)の責任において進められ、Acceptされたものが韓国事務局へ引き渡されることとなっております。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

**新投稿先**：PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG  
 International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)  
 KOFST - Main Building #205  
 635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821  
 Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

**編集方針**：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

**編集体制** (2006.1.1～2008.12.31)

• Editor in Chief : Prof. Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironment Sciences, Kyushu University, Japan

• Editors

Prof. Dr. Sietan CHIENG

Department of Civil Engineering, University of British Columbia, Vancouver, Canada

Prof. Dr. Budi Indra SETIAWAN

Department of Agricultural Engineering, Bogor Agricultural University, Bogor, Indonesia

Prof. Dr. Mauro GREPPI

Institute of Agricultural Hydraulics, University of Milan, Milano, Italy

Prof. Dr. Shuichi HASEGAWA

Graduate School of Agriculture, Hokkaido University, Sapporo, Japan

Prof. Dr. Makoto KIMURA

Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University, Nagoya, Japan

Prof. Dr. Chun Gyeong YOON

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Shahid AHMAD

Natural Resources Division, Pakistan Agriculture Research Council (PARC) Islamabad, Pakistan

Dr. Huang GUANHUA

Chinese-Israeli International Center for Training in Agriculture, China Agricultural University, Beijing, P. R. China

Dr. To Phuc TUONG

Crop, Soil and Water Sciences Division, International Rice Research Institute (IRRI) Metro Manila, Philippines

Prof. Dr. Luis Santos PEREIRA

Institute of Agronomy, Technical University of Lisbon, Lisbon, Portugal

Prof. Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Dr. Meredith GIORDANO

International Water Management Institute (IWMI) Colombo, Sri Lanka

Prof. Dr. Tawatchai TINGSANCHALI

School of Civil Engineering, Asian Institute of Technology (AIT), Pathumthani, Thailand

Prof. Emeritus Dr. Kenneth K. TANJI

Department of Land, Air and Water Resources, University of California, Davis, U.S.A.

• Editing Board

Dr( Ms ) Elizabeth HUMPHREYS

CSIRO Land and Water, Griffith, Australia

Mr. Aly M. SHADY

Natural Resources Division, Canadian International Development Agency (CIDA) Quebec, Canada

Mr. Brent PATERSON

Food and Rural Development Agriculture Centre, Alberta Agriculture, Alberta, Canada

Dr. Satyanto Krido Saptomo

Department of Agricultural Engineering, Bogor Agricultural University, Bogor, Indonesia

Prof. Dr. Ettore CAPRI

Institute of Agricultural and Environmental Chemistry, Catholic University of Holy Heart, Piacenza, Italy

Prof. Dr. Aldo FERRERO

Department of Agronomy, Forest and Land Management, University of Turin, Grugliasco, Italy

Prof. Dr. Akira GOTO

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

Dr. Yuji KOHGO

National Institute for Rural Engineering (NIRE) Tsukuba, Japan

Prof. Dr. Masayoshi SATOH

Institute of Agricultural and Forestry Engineering, University of Tsukuba, Tsukuba, Japan

Prof. Dr. Kazuhiro TAKAGI

Department of Environmental Chemistry, National Institute for Agro-Environmental Sciences (NIAES) Tsukuba, Japan

Prof. Dr. Joong Dae CHOI

Division of Agricultural Engineering, Kangwon National University, Chuncheon, Korea

Prof. Dr. Jin Soo KIM

Department of Rural Engineering, Chungbuk National University, Cheongju, Korea

Dr. Song-Bae KIM

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Seoul, Korea

Ir. Dr. M. S. M. AMIN

Department of Biological and Agricultural Engineering, University Putra Malaysia, Serdang Selangor, Malaysia

Prof. Dr. Tahir HUSSAIN

Faculty of Agriculture, University of Agriculture, Faisalabad, Pakistan

Prof. Dr. Muhammad LATIF

Centre of Excellence in Water Resources Engineering (CEWRE) University of Engineering and Technology, Lahore, Pakistan

Prof. Dr. Heping HU

Department of Hydraulic Engineering, Tsinghua University, Beijing, P. R. China

Prof. Dr. Jiesheng HUANG

College of Water Resources and Hydropower Engineering, Wuhan University, Wuhan, P. R. China

Prof. Dr. Yuanhua LI

National Center of Irrigation and Drainage Development (NCIDD) Ministry of Water Resources, Beijing, P. R. China

Dr. Jifu YANG

Department of Irrigation and Drainage, China Institute of Water Resources and Hydropower Research (IWHR) Beijing, P. R. China

Dr. ( Ms ) Kam Suan PHENG

Social Sciences Division, International Rice Research Institute (IRRI) Metro Manila, Philippines

Prof. Dr. Ming-Hsi HSU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Dr. Ming-Hua TSAI  
 Department of Irrigation and Engineering, Council of Agriculture Executive Yuan, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Prof. Emeritus Dr. Ru-Yih WANG  
 Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Dr. David MOLDEN  
 Irrigation and Water Resources Program, International Water Management Institute (IWMI), Colombo, Sri Lanka

Mr. Jean-Luc SAUTIER  
 Swiss Federal Office for Agriculture, Berne, Switzerland

Dr. Bancha KWANYUEN  
 Faculty of Engineering, Kasetsart University, Nakhonpathom, Thailand

Dr. Varawoot VUDHIVANICH  
 Faculty of Engineering Kamphaengsaen, Kasetsart University, Nakhonpathom, Thailand

Dr. James E. HILL  
 Department of Plant Science, University of California, Davis, U.S.A.

Prof. Emeritus Dr. Gilbert LEVINE  
 Center for International Studies, Cornell University, Ithaca, U.S.A.

Dr. V. R. REDDY

Alternate Crops and Systems, USDA-ARS, Beltsville, U.S.A.

Dr. Lawrence J. SCHWANKL  
 Department of Land, Air, and Water Resources, University of California, Davis, U.S.A.

• Managing Editors  
 Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG  
 Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO  
 Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Dr. Masaru MIZOGUCHI  
 Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE  
 Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG  
 Department of Bioenvironmental System Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社 : Springer Verlag 社 (ドイツ)  
 投稿資格 : 筆者全員が国際学会員であること。  
 投稿要領等 : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

**農業土木学会誌への投稿お待ちしております！**

農業土木学会誌編集委員会

**74巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集**

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集がテーマは仮題となっておりますものは、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会へてお送りください。

採用された原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社) 農業土木学会 学会誌編集委員会へて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail [henshu@jsidre.or.jp](mailto:henshu@jsidre.or.jp)

**学会誌 74巻の小特集のテーマ**

小 特 集 テ - マ	要 旨 締 切 ( A 4 判 1 5 0 0 字 以 内 )	原 稿 締 切 ( 刷 上 り 4 ペ ー ジ 厳 守 )
74巻 6号 関東地方の農業農村整備事業(仮)	公募なし	
7号 湿原・湿地の管理と環境保全I 湿地の特性と湿原保全のための湿原管理	公募終了	
8号 湿原・湿地の管理と環境保全II 湿地としての農地管理	公募終了	
9号 圃場整備と農業生産法人(仮)	公募終了	平成18年4月14日
10号	公募なし	
11号 環境配慮とモニタリング(仮)	平成18年4月25日	平成18年6月15日
12号	公募なし	
75巻 1号 学会誌の愛称について(仮)		



## 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業土木学会ホームページに掲載の「農業土木学会誌投稿要項」、  
「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

### 74巻11号テーマ：「モニタリング技術の最前線」(仮)

近年、さまざまな分野の技術革新により、測定技術が飛躍的に向上しています。たとえば、構造物の非破壊検査技術や、大気や水・土壌中の微量物質を対象とした計測技術の発展により、計測時間の大幅な短縮化やより高精度のデータ取得、または観測衛星を利用した測定技術の進歩により広域的かつ高頻度のデータ取得が可能となっています。さらには、フラッシュメモリ等の記憶容量の向上により、長期的な連続データの観測も容易になっています。

農業土木分野においても、これまで計測できなかった高精度のデータや高頻度のデータ取得が可能となったことで、大きな技術的発展が期待される所です。そこで、最先端の測定技術を用いた計測やモニタリング事例、およびその結果を用いた最先端の技術事例について報文を募集します。

### 「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

**オフィス便り**は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

**キャンパス便り**は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、**刷上がり1ページ**(1,800字程度)で、写真を1~2枚程度入れてください。

**私の勤める本**は、原稿の長さ：1,200字（写真・体裁等含む刷り上がり1ページ以内原稿には表紙の写真を含めて下さい）

## 身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

### 「農業土木学会誌」平成19年春季用の表紙写真の募集

農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成19年も皆さまからの写真で表紙を飾ることとしました。テーマは「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で、学会誌第75巻(平成19年1~12月号)のうち、特に春季の表紙写真を募集します。ふるってご応募ください。

#### 記

#### 1. 趣旨

これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込むことで、その美しさに磨きがかかってきます。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言うべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で、「先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」を、学会誌の表紙写真でご紹介ください。

#### 2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで六ツ切り。デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFFモードに設定し、撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、そのことを明記してください。

#### 3. 枚数

応募写真には制限がありませんが、未発表のものに限ります。

#### 4. 締切 平成18年6月30日(春季の写真)

#### 5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、今年は募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

#### 6. 審査

審査委員会(編集委員と写真家)で選びます。

#### 7. 結果発表

学会誌 75 巻 1 号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成 19 年度大会会場でパネル展示します。

#### 8. 賞品

入選作品 1 点につき 3 万円（表紙掲載料含む）。応募者には記念品をお送りします。

#### 9. 応募資格

学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧めください。

#### 10. その他

応募写真の裏面にタイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職

業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）を記入して下さい。対象物の名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明（いつ、だれが、どうして等）もお寄せ下さい。

原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、(社)農業土木学会に属します。

#### 11. 宛先

〒105 0004 東京都港区新橋 5 - 34 - 4 (社) 農業土木学会  
農業土木学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

### 新シリーズ「水利遺産探訪」スタート 皆様のご投稿を大募集中！ 農業土木学会編集委員会

農業土木学会誌ではこのたび新シリーズ「水利遺産探訪」を開始し、第 1 弾として会員の松本（独）農業工学研究所理事が投稿された「(京都の) 桂川「一の井堰」物語」を掲載することとなりました。つきましては、本シリーズに掲載する原稿を広く会員の皆様から募りたいと考えておりますので、奮ってご投稿いただくようお願い申し上げます。

わが国では、古来、先人の知恵と努力により多くの農業土木に関係した水利施設が造成されてまいりました。「温故知新」という言葉がありますが、「農業土木」を改めて知るために、ふるき水利遺産をたずね、先人の歩んだ道をふりかえることは重要なことであると考えています。そして、ふるき水利遺構にこめられた先人の「水土の知」を、未来で活かしていくための「未来へのメッセージ」としてまとめたいと考えております。

また、海外協力の分野においては、土地改良区を中心とする日本の灌漑排水システムが良きモデルとして注目されており、海外で日本の経験を如何に適應させるかが求められています。そのためにも、我々の先人の知恵と経験を他国で活用できるように整理することが必要になっていきます。

農業土木学会では、過去、「水土を拓いた人びと」を発刊した他、石狩川、北上川等の各水系農業水利誌（史）を発行してまいりました。今回のシリーズでは、会員の方に親しまれる内容のものを狙いたいと考えており、取り上げる内容についても、構造物だけに限らず計画や人物などに焦点をあてたものも含めて幅広いものにしていきたいと考えております。

ご投稿は会員の皆様が書きやすい任意のテーマでお願いします。シリーズ名は「水利遺産探訪」ですが、「排水」や「干拓」に関連したものや、比較的最近のものを扱っていただいてもかまいません。お近くや過去携わったことのある水利施設等をテーマに気軽にご投稿下さい。

なお、投稿は何時でも受け付けておりますが、今回の京都の次は「江戸の水利遺産・遺構」がテーマのものを先ず掲載したいと考えています。分量の制限はございませんが、分割して掲載させていただくこともありますので、あしからずご理解頂ければ幸いです。

皆様の多数のご投稿をお待ちしております。

### 既刊の土地改良事業計画設計基準等の正誤表について

土地改良事業計画設計基準等につきましては、技術の進歩にあわせて改定を行ってきていますが、印刷の段階での誤植のほか、表現等適切とは言えない部分について、多方面からご指摘をいただいております。事務局としては、このような訂正が生じたことに対しお詫び申し上げるとともに、貴重なご指摘をいただいた皆様に感謝申し上げます。また、今後、このようなことがないよう、編集・出版に当たり、査読・確認に十分留意してまいりたいと考えております。

今回、こうしたご指摘を踏まえ、正誤表を巻末添付のとおり整理いたしましたので、土地改良事業計画設計基準等の活用に当たっては十分ご留意いただくようお願い申し上げます。

今後、修正等があった場合には、定期的に学会誌上に報告させていただきたいと考えております。

(担当事務局：農林水産省農村振興局資源課・設計課，農業土木学会事務局)

国際水田・水環境工学会 2006 年（第 4 回）国際研究集会の開催について  
 テーマ：持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理（ ）

PAWEES 2006 (4th) International Conference On  
 Management of Paddy and Water Environment for Sustainable Rice Production ( )

農業土木技術者継続教育認定プログラム申請中



主催：国際水田・水環境工学会

PAWEES; International Society of Paddy and Water Environment Engineering

共催：農業土木学会，韓国農工学会，台湾農業工程学会

趣旨

国際研究集会 [ 持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理 ] は，周辺環境との調和に配慮した持続的水田水管理の適切な技術とその応用に関する最新の研究についての情報交換を目的として，以下の内容の下に開催されることとなりました。

1. 水田のエコロジカルサービス向上への実践および政策枠組み  
 キーワード：実施事例，機能定量化，社会・経済性評価など
2. 流域レベルにおける水田稲作を中心とした統合的資源管理  
 キーワード：土地利用計画，資源の高度利用，参加型管理など

研究集会では，最新の研究成果の発表および情報交換を行うことにより国際的見識を深めるとともに，水田・水環境分野における今後の重点研究課題を抽出し，将来の国際的研究の方向性を議論します。さらに，過去の研究成果をいかに実社会に還元していくかの方法論を議論し，食料安全保障や発展途上国の貧困と飢餓の撲滅および農村の発展に貢献していくための方策を探ることとします。

また，日本の研究者・技術者が過去に築いてきた関係国・地域，関係研究機関等との連携を強化し，その他諸国の広汎な連携を推進することも意図しています。

主催学会の PAWEES は 2003 年 1 月に設立されました。設立の主な目的は，第 3 回世界水フォーラムでも議論された水問題，なかでも非常に重要な役割を果たしている水田農業を，流域レベルの資源・物質循環という観点から評価し直すとともに，環境や人口扶養・貧困問題への効果といった統合的な視点を取入れた新しい技術・学術体系として水田農業工学を確立し，その国際化を図ることが重要であるとの認識に由来しているものです。

水田・水環境に関連する研究・技術に携わっておられる方々にとっては，意義のある研究集会です。奮って参加されますよう，お知らせいたします。

1. 日 時：2006 年 8 月 10 (木) ~ 11 日 (金)
2. 場 所：宇都宮大学農学部
3. テーマ：持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理 ( )
4. 講演発表の募集

下記内容に即した講演発表を募集します。

1. 水田のエコロジカルサービス向上への実践および政策枠組み  
 (キーワード：多面的機能，実施事例，機能定量化，社会・経済性など)
2. 流域レベルにおける水田稲作を中心とした統合的資源管理  
 (キーワード：水・土地資源管理，土地利用計画，資源の高度利用，参加型管理など)

講演発表を希望する場合は，平成 18 年 4 月 16 日 (日) までにアブストラクトを提出する必要があります。選考委員会によってアブストラクトは審査され，その採否を発表希望者にご連絡いたします。

アブストラクトの提出は，

Web サイト：www.jsidre.or.jp/pawees2006 から申込用紙をダウンロードして，必要事項を記入し，

E mail:pawees2006@jsidre.or.jp までお願いいたします。

アブストラクトは，英 250 語以内 (表題，所属，氏名を除く) です。

使用言語は，英語です。

5. 主要なスケジュール

- 1) 講演原稿  
 アブストラクトの受付開始：平成 18 年 3 月 20 日 (月)  
 アブストラクトの提出期限：平成 18 年 4 月 16 日 (日)  
 原稿採択通知 (E mail) : 平成 18 年 4 月 26 ~ 30 日  
 採択原稿の提出期限 : 平成 18 年 6 月 30 日 (金)

- 2) 参加登録：  
 登録期間：平成 18 年 3 月 20 日 ~ 6 月 10 日  
 (定員に余裕がある場合のみ，研究集会当日に可能)  
 参加登録費：5,000 円  
 講演要旨集は，研究集会当日にお渡しします。

6. 問い合わせ先

松野 裕 (PAWEES 2006 事務局長)  
 近畿大学農学部国際資源管理学科  
 〒631 8505 奈良市中町 3327 204  
 メールアドレス：matsuno@nara.kindai.ac.jp  
 吉武 幸子 (農業土木学会出版編集部)

(社) 農業土木学会事務局  
 〒105 0004 東京都港区新橋 5 - 34 - 4  
 農業土木会館 3 階 1 号室

メールアドレス：pawees2006@jsidre.or.jp

**日本農業工学会第22回シンポジウム  
食料生産エンジニアリングの新展開  
主催：日本農業工学会**

**〔開催の趣旨〕**

増加する世界人口を養うためには食料生産の拡大が必要である。しかし、農地面積の拡大の困難さ、環境との調和、消費者との対話、安全な食料の生産など、現在の食料生産の現場は、様々な制約のもとに置かれている。「とにかく食料を増産すればいい」という時代を超えて、人類の健全な生存のための食料を得ていく時代を迎えている。

一方では、科学技術の進展によって、従来では不可能であったことが現実化している例は多い。様々な条件を満しつつ食料生産の拡大を目指すには、新たな科学技術の導入が不可欠である。本シンポジウムでは、食料生産の場での新たな技術の動向を探り、今後の食料生産エンジニアリングのあり方を考察する。

下記の通り、第22回日本農業工学会シンポジウムを行います。多数のご参集をお願い申し上げます。

**プログラム**

**日時：**平成18年5月12日（金）13：30 - 16：30

**場所：**農業土木会館6階大会議室  
東京都港区新橋5-34-4

**参加費：**1,000円（資料代含む）

**申込方法：**当日受付

**話題提供講師**

1. フィールドサーバー  
（独）農業・生物系特定産業技術研究機構 中央農業総合研究センター 平藤雅之
  2. コピキタス環境制御システムによるインテリジェント低コスト温室  
東海大学開発工学部 星岳彦
  3. 農地における土壌侵食問題と地域環境保全技術  
沖縄赤土流出問題に着目して  
東京工業大学大学院理工学研究科 大澤和敏
  4. カオス・複雑系の生態情報学 農工融合のアプローチ  
東京農工大学農学部地域生態システム学科 酒井憲司
  5. 自然冷気を利用した新規貯蔵技術（超低温貯蔵）の開発  
北海道大学大学院 農学研究科 川村周三
- 問い合わせ先：東京都港区新橋5-34-4  
日本農業工学会事務局 担当 菊辻  
☎03 3436 3418  
FAX 03 3435 8494

**農業土木学会選書16**

**高生産性水田農業と基盤整備**

—その事例と展望—

（社）農業土木学会発行

**目次**

- |   |   |
|---|---|
| <p>I. 本編</p> <p>第1章 直播栽培の技術</p> <p>第2章 高生産性水田の管理技術</p> <p>第3章 稲作機械化の新技術</p> <p>第4章 高生産性水田における水管理技術</p> <p>第5章 大区画水田の基盤整備技術</p> <p>第6章 大規模水田経営と生産組織<br/>—国際化と日本稲作農業の対応方向—</p> <p>第7章 農政の国際規律と土地改良</p> <p>II. 事例編</p> <p>第8章 植民区画の再整備<br/>—北海道深川市新千代第6地区—</p> <p>第9章 大区画圃場整備事業を契機にした集落農業の再編—岩手県紫波町土館地区—</p> <p>第10章 大区画圃場整備と農地の利用集積<br/>—山形県遊佐町月光川右岸地区—</p> | <p>第11章 大区画圃場整備と乾田直播<br/>—福島県原町市高地区—</p> <p>第12章 大区画圃場整備と乾田直播<br/>—千葉県印旛沼地区—</p> <p>第13章 圃場整備を契機とした集落営農<br/>—新潟県三島町三島南部地区—</p> <p>第14章 乾田直播栽培—福井県春江町姫王地区—</p> <p>第15章 不耕起乾田直播栽培の適用例<br/>—岡山県岡山市幸田地区—</p> <p>第16章 大区画圃場の整備と先進的低コスト水田農業の確立—広島県大和町福田地区—</p> <p>III. 資料編</p> <p>第17章 パネルディスカッションの記録<br/>「高生産性水田農業と農業基盤整備の展開」</p> <p>第18章 高生産性圃場の整備技術<br/>—岡山県鍋島実験農場—</p> <p>第19章 圃場整備の事業制度の変遷</p> |
|---|---|

A5判 約200ページ 定価3,400円（内税・送料学会負担）  
会員特価2,800円（内税・送料学会負担）  
〔会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます〕

**申込先** 〒105-0004 港区新橋5-34-4  
（社）農業土木学会 担当：関根  
☎03-3436-3418 FAX03-3435-8494